様式第３号

令和４年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	81	学 校 名	静岡県立浜名高等学校 （定時制）	校 長 名	山崎　仁資

本年度の取り組み（重点項目はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
教務 研修 図書 管理職	**基礎学力の定着を実感する授業の実践と支援体制の確立**	・「授業を通して新しい知識が身についている」生徒 80%以上。	「あてはまる」と回答した生徒 91.8%。	A	昨年度よりも 13.5%の増加がみられた。「テストで納得できる点数が取れている」と回答した生徒も 80%を超えており、授業での理解に手応えを感じているのではないか。生徒の能力や資質は多様なため、個別の対応を充実していく必要がある。
		・「授業に積極的に取り組んでいる」生徒 80%以上。	「あてはまる」と回答した生徒 93.8%。	A	昨年度よりも10%の増加がみられた。スマートフォンの扱いを定めたことにより、授業への集中度が高まったと考えられる。テスト直前の積極的な取り組みを、普段から継続していけるような雰囲気づくりが必要である。
		・「質問には丁寧に応じてくれる」生徒 80%以上。	「あてはまると回答した生徒 94.8%。	A	生徒が理解するまで丁寧に説明をするよう心掛けている。質問をしてくる生徒の数は増加していると感じる。生徒が疑問を感じる内容は多様であり、質問者がさらに増加した場合の対策を考えねばならない。
		・生徒の実態に合わせた学び直しの授業をしている教職員 100%。	「あてはまる」と回答した教職員 62.5%。	B	基礎基本の定着を目指しての学び直しや、新しい学習内容の理解を深めるための学び直しなど、目的に応じた取り扱いができている。 しかし、学習指導要領に則った教科指導と、個々の習熟度を考慮しながらの学び直しを両立する事は困難であり、カリキュラムの見直しも視野に入れる必要がある。
		・「授業の内容、説明が分かりやすい」生徒 80%以上。	「あてはまる」と回答した生徒 94.9%。	A	１年生はタブレットを活用しての授業を展開している。来年度からは全学年が活用することとなる。さらなる工夫を重ねて、生徒の理解を深めていきたい。

様式第３号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
		・検定合格者・資格取得者が延べ 120 人以上。	・日本語ﾜｰﾌﾟﾛ 11 人 ・情報処理　　８人 （・簿記検定２月実施） ・日本語能力　13 人 合計 32 人	B	商業科にて授業内容を改善し、受検する資格を精選した結果、合格者数は大きく減少した。 日本語能力試験は、受験料の補助制度がなくなり、受検者数の大幅な減少が危惧されたが、積極的なチャレンジが見られた。
		・外国籍生徒を対象とした支援プログラムの実施３回以上。	外国人生徒みらいサポート事業での支援２回実施。 外国人生徒支援事業で、タガログ語支援員とポルトガル語支援員に、年間を通じて始業前の個別支援を実施。	B	12月初旬に行われた日本語能力試験に向けての対策は非常に効果的であり、合格に大きく貢献した。 また、外国人生徒支援員による個別支援は、日本語能力の向上だけでなく、母語で自分の気持ちを聞いてくれる存在として生徒の精神面的な安定にも繋がった。
		・「日々の仕事にやりがいを感じる」支援員 100%。	「日々の仕事にやりがいを感じる」と答えた支援員 100%。	A	定時制生徒支援員には個別の学び直しや日本語能力試験への対応も依頼し、成果を上げた。またブラジル人生徒の増加に伴い、年間を通じてポルトガル語支援員を依頼し、精神面のケアーにも効果があった。
生徒 教務 保健	**社会生活に適応する生活習慣の確立**	・「授業」の場を活用し、社会生活への適応に関するルールやマナーを伝える教員 100%。	全ての教員が「授業」の場を活用し、社会生活への適応に関するルールやマナーを伝えた。	A	生徒が自分の生活に結び付け、ルールやマナーの意義を理解できるよう工夫しながら働きかけ続ける必要がある。学校全体としての雰囲気を変えていけるよう、粘り強く指導していかねばならない。
		・「出席率」90%以上、「遅刻率」10%以下、「早退率」1.0%以下。	・出席率　96.1% ・遅刻率　11.9% ・早退率　　1.1%	B	２学期から遅刻が増加し始め、有効な対策を講じることができなかった。 出席率は昨年と同じで高いい割合である。学校に目が向いている生徒が多いことや、長期欠席者が不在であったことは良かった。
		・社会生活のルールやマナーに関する全校集会等での話、年間で６回以上。	始業式や終業式、臨時の全校集会等において、現状を踏まえて必要であると思われる内容を伝えることができた。	A	集会等で、話を聞く姿勢ができているため、理解はさせることができたとは思うが、遅刻や欠席については行動に繋げさせることが難しかった。

様式第３号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
					また、授業中の帽子やフードの着用など、伝え続けないと守れなくなるという現状がある。
		・管理職及び職員による、登校時「呼びかけ運動」の原則毎日実施。	ほぼ毎日、昇降口や廊下に職員が出て呼びかけ運動を行った。	A	昇降口外側での挨拶、廊下での手洗いや手指消毒の声掛け、門付近での交通指導など、登校時に複数の職員が様々な場所で声掛けし、コミュニケーションをとった。生徒の様子も把握でき、生徒理解につながった。
		・生徒の交通事故及び問題行動、年間 10 件以内。	・交通事故　６件 ・問題行動　３件 合計　９件	B	不注意による交通事故が立て続けに起きた時期があった。自分の行動をコントロールすることや、自分の行動に責任を持つことなどを呼びかけていく必要がある。
教務 生徒 進路 保健 研修	充実した学校生活を通した健全な心と体の育成	・遠足、体育大会、修学旅行、ボウリング大会等、行事への出席率が 85%以上。	・遠足　97.1% ・体育大会　96.1% ・ﾎﾞｳﾘﾝｸﾞ大会　97.3% ・修学旅行　96.1% ・かるた大会　95.0% ・合同文化祭　95.0%	A	行事に対して非常に高い出席率であった。行事を楽しみにしている生徒も多く、メリハリのある学校生活に結びついていると感じる。さらに魅力的な行事となるよう、工夫を凝らしていきたい。
		・「グッドマナー教室」、「薬学講座」、「性教育講座」「福祉講座」等、外部講師による講座を年５回以上実施。	「ピアサポート」「グッドマナー教室」「スマホ・ケータイ教室」「食育講座」「薬学講座」「性教育講座」「主権者教育」「租税教室」「福祉講座」等を実施した。	A	高校生として、社会人として必要となる資質を高めるための講座を、外部の専門家を招いて開催することができた。難しい内容は理解できない生徒もいるため、事前に本校定時制の生徒の様子を講師に知らせ、内容や伝え方などを工夫してもらう必要がある。
		・「浜名高校に入学してよかったと思う」生徒 85%以上。	「あてはまる」と回答した生徒 94.9%。	A	多くの生徒から肯定的な回答を得られたことは非常にありがたい。学校に自分の居場所があり、安心して登校して来られる学校であり続けられるように努めなければならない。
		・「学校行事が充実している」生徒 85%以上。保護者 85%以上。	「あてはまる」と回答した生徒」89.7%、保護者 95.7%。	A	感染症拡大防止のために規模縮小をせざるを得なかった行事もあり、残念であった。 行事の内容においては、前年度踏襲にこだわらず、さらに充実した内容になるよう検

様式第３号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
					討を重ねたい。
		・「進路指導がしっかりされている」生徒80%以上。保護者85%以上。	「あてはまる」と回答した生徒92.8%、保護者92.8%。	A	今年度より求人票検索システムHandyを導入、浜松商工会議所と連携して採用担当との対話、企業見学を実施した。 入学時当初からの進路実現を見据えた指導に、生徒たちも当事者意識を持って取り組み、保護者にも伝わっているためだと感じる。 進路先として派遣社員を選ぶ外国籍生徒が多い状況は変わらなかった。
		・「自分には良いところがある」生徒80%以上。	「あてはまる」と回答した生徒81.6%。	A	生徒が自己肯定感を高めるためにも、積極的にコミュニケーションをとり、行動や存在を認めるメッセージを送り続ける必要がある。 また精神的に不安定で生きることにも不安を抱えている生徒に対しても、教員が背中を押せるような存在であるよう、日々、関わり続けていきたい。
		・「学校に信頼できる先生がいる」生徒80%以上。	「あてはまる」と回答した生徒90.7%。	A	教員が個々の生徒の様々な困り感を把握し、細やかに対応できている結果であると感じる。今年度から配置されたスクールソーシャルワーカーの存在は非常に大きいものであった。
		・「いじめに遭ったり見たりしたことがある」生徒０%	「あてはまる」と回答した生徒０%。	A	これまでの成育環境だけでなく、現在の家庭環境や職場環境においても多くのストレスを抱えている生徒は少なくない。不安定な精神状態が他者攻撃につながらぬよう、いじめ防止に関する内容をＨＲ活動等で取り上げる必要がある。
		・健康診断後の治療率の向上	健康診断後の治癒率は19.5%。	B	治癒率は昨年度よりもわずかに向上したが、８割以上の生徒が健康診断の結果を生かせていないという事になる。特に受診率が低い視力を中心に、継続的な声掛けの必要がある。

様式第３号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
		・給食喫食率 40％以上。	給食喫食率は 30.9％。	C	目標を10％も下回る結果となった。給食の在り方を見直していくとともに、生徒のニーズに合った給食を提供できるよう考えていきたい。
		・部活動の県大会出場又は発表会等の対外行事に参加する生徒 25 人以上。	・ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ 14 人 ・ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ 13 人 ・陸上競技 ２人 ・生活体験発表２人 合計 31 人	A	多くの生徒が積極的に部活動に参加した。県大会への出場を躊躇していた生徒も数名見受けられたため、来年度は挑戦することができるように声掛けしてく。
総務管理職	**家庭・職場・地域・関係機関との連携**	・ＰＴＡ定時制部会出席者 20 人以上。	ＰＴＡ定時制部会出席者は 25 人。	A	下級生の保護者を中心に、出席者が増加している。要望や意見を吟味し、改善につなげていく。また、情報交換のみではなく進路についての内容を盛り込むなどして、保護者にとって有益な情報を得る場となるように改善する必要がある。
		・「保護者からの相談、質問に教職員が適切に対応する」保護者 80％以上。	「あてはまる」と回答した保護者 95.6％。	A	ＰＴＡ定時制部会においても情報共有の場を設け、丁寧な対応を心掛けた。進路に関する相談にも個に応じた対応をすることで効果を上げ、信頼関係を構築することに繋がった。
		・「定時制通信（ともしび通信）から学校の様子がわかる」保護者 85％以上。	「あてはまる」と回答した保護者 85.5％。	B	ともしび通信が保護者の手元に届いていないという現状がある。現在は生徒を通して紙媒体での配布であるが、ＨＰ等のインターネットを活用した手段も講ずるなど、工夫が必要である。
		・「浜名高校に入学させてよかったと思う」保護者 85％以上。	「あてはまる」と回答した保護者 100％。	A	本校入学までに様々な困難を経験してした生徒たちが、「入学してよかった」と感じているため、保護者の満足度も高くなっている。しかし保護者の回答率は 69%である。回答率を100%に近づけることで、多様な意見を拾い上げることにつなげていきたい。
		・「ともしび通信」を年間 10 回発刊	15 回発刊（２学期末まで）	A	生徒たちの学校での活動を、写真を多く取り入れながら作成し、生徒のコメントも掲載するなど、内容の改善にも努めた。必要に応じで、情

様式第３号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
					報伝達の場としても活用した。
		・地域ボランティアとして周辺の清掃活動を実施。	周辺の清掃活動を３学期のＨＲ活動にて実施する予定。	B	地域に貢献できる活動は今後も継続していきたい。周辺の清掃活動は寒くなってからの時期ではなく、比較的暖かい季節に実施することが望ましい。
情報 研修 管理職	チーム学校の推進に向けた業務の改善とその遂行	・「生徒を職員全体でサポートできた」教職員、支援員アンケート90％以上	「あてはまる」と回答した教職員92.8％。	A	多くの分野において相互に連携を取りながら生徒支援を進めることができたが、一部の役割において生徒支援の負担が偏った業務量となった。少ない人数ではあるが、主担当だけでなくフォローできるよう分担する必要がある。
		・生徒支援に関する講演や不祥事根絶のための職員研修を年間５回実施。	「不祥事根絶グループワーク」、「外国人生徒の理解」、「ＳＳＷ理解と活用」、「ストレスマネジメント」、「労働安全」、「特別支援教育の視点から」の６回実施を実施した。	A	依然として多くの割合を占める外国人生徒の理解のための研修や今年度から配置校となったＳＳＷによる研修は、非常に多くの学びを得ることができた。 また、精神面が不安定であることが不祥事につながることのないよう、教員個々のケアに焦点を当てた研修も実施した。体罰やセクシュアルハラスメントも皆無であった。
		・教職員アンケート「先輩・同僚からのアドバイスが期待できる」75％以上	「あてはまる」と回答した教職員87.5％。	A	学年や分掌からパソコンの使い方に至るまで、分からない点は質問し、知識や経験のある教職員が丁寧に答えるという雰囲気が醸成されている。ただし、ほとんどの教科で教員が一人ずつしかおらず、教科指導に関してのアドバイスは難しい。